

## 酒田市立資料館 常設展のご案内

資料館2階では、酒田市の古代から近代までの歴史がわかる資料を展示しています。個人はもちろん、町内会や研究会の見学、学校の校外学習での団体利用もお待ちしております。調査員による簡単な解説も行っています。なお、以下に紹介のない事柄(戦争・近代の教育史など)も、一部資料をご用意の上解説できます。校外学習・イベントで利用の場合は、お電話・メールなどでご相談ください。

### (1)古代



庄内平野の形成から、大和朝廷の進出まで、発掘された土器や石器を展示・紹介しています。

縄文時代の庄内平野は浅い海が広がっており、潟湖のような状態でした。次第に土砂が溜まり、現在のような土地が形作られました。

展示ケースには、黒森遺跡から出土した石器類や、生石2遺跡より出土した遠賀川系土器などを展示しています。

### (2)出羽国府の時代



大和朝廷は敵対していた蝦夷に備えるため、和銅5年(712年)に「出羽国」を置きました。いまだ不明な点が多く残りますが、市内で発掘された「城輪柵跡」(昭和6年発見)は当時の政庁跡として確実視されています。

展示ケースには、城輪柵跡より発掘された外郭東門柱根や、出土した将棋の駒、蕨手刀などを展示しています。

### (3)中世期



平安時代中期頃、出羽国には次第に国府の力が及ばなくなり、代わりに「豪族」が登場します。各地に城を構え、庄内を領地として支配しました。現在、城は一部の遺構を残して失われていますが、各地の神社・寺には、当時の古文書が残されています。

当館では残された甲冑、兜、古文書を保存しています。中世期酒田の数少ない資料です。

#### (4)江戸時代 商人の町・酒田の発展



江戸時代、最上川河口の酒田は西廻り航路の拠点となり、貿易港として大きく発展しました。米を運ぶ弁財船の帆柱は港に林のように立ち、本間家・鏡谷家・二木家などの豪商が本町通りに家を構えました。西廻り航路によって江戸や京都から運ばれた雛人形や工芸品は、現在も酒田の旧家・観光施設で保存されています。展示ケースには出船手形・船の模型・錨・商人の道具などを展示しています。

#### (5)戊辰戦争へ



戊辰戦争が勃発すると、譜代大名であった庄内藩は、旧幕府側につき、新政府軍と激戦を繰り広げました。本間家の援助で大量の武器を輸入し、兵の士気も高かった庄内藩は、各地の戦場で勝利していきます。しかし、次第に追い詰められてゆき、降伏しました。この時に西郷隆盛は庄内藩に寛大な措置が下るよう、根回しをしたといえます。展示ケースには外国から輸入された洋銃、軍艦の遺物などを展示しています。

#### (6)酒田大火



昭和51年10月29日、酒田の中心市街地を焼き尽くす「酒田大火」が発生しました。今現在も市民の記憶に強く残る災害です。展示ケースには、当時の様子を撮影した写真、焼け残った生活用品、全国から寄せられた義捐金の封筒などを展示しています。当時の記録映像も視聴できます。

#### (7)懐かしい昔の道具／鶴渡川原人形



小学生が校外学習で利用する「昔の道具」と、酒田のかわいい土人形「鶴渡川原人形」を展示しています。

展示に関してのお問い合わせは 酒田市立資料館 Tel0234-24-6544 まで